

茅ヶ崎市で保護されたチゴハヤブサの記録

伊藤 恵美

Megumi Ito

Notes on the rescued eurasian hobby *Falco subbuteo* from Chigasaki City

はじめに

日本野鳥の会神奈川支部(1998)によると、本県において確認されているハヤブサ科は、チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*, コチョウゲンボウ *F. columbarius*, ハヤブサ *F. peregrinus* およびチゴハヤブサ *F. subbuteo* の4種となっている。

チゴハヤブサは北海道や東北地方で繁殖し、繁殖地以外でも9月下旬から10月下旬にかけて、本種が南へわたっていく様子が観察できる、とされている(森岡ほか, 1995)。事実、本県における観察例も、そのほとんどが9月下旬から10月下旬となっている(日本野鳥の会神奈川支部, 1998)。

保護状況

本鳥は2000年10月9日、茅ヶ崎市本宿町の民家の庭で横たわっているところを、家主が保護したもので、翌日の10月10日にセンターに搬送された。右翼上腕骨を骨折しており、右翼付け根の背面側にも外傷が見られたことから、何かに衝突したものと考えられた。搬入翌日の10月11日に死亡したので写真に収め、計測をおこなった。

計測値

計測値は次のとおりであった。全長295.0 mm, 翼長258.0 mm, 尾長135.0 mm, 嘴峰長(蠟膜有り)16.0 mm, 嘴峰長(蠟膜なし)12.0 mm, 会合線20.0 mm, 跗蹠長35.5 mm, 体重176 g。

種の同定

森岡ほか(1998)にもとづき、本鳥は細く短い白色の眉斑があること、頭部の黒色と白色の境が明瞭で頬の白い部分は広く、頬と耳羽の間は黒いくさび状の模様を呈すること、たたんだ翼の長さが尾の先を越えること、といった外部形態の特徴(図1~3)をもつこと、および計測値より、チゴハヤブサと同定した。

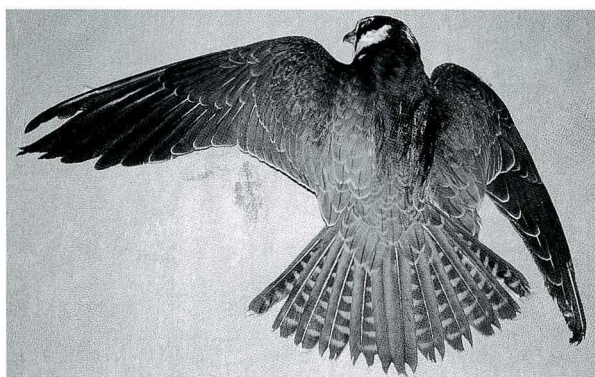


図1. 背面.

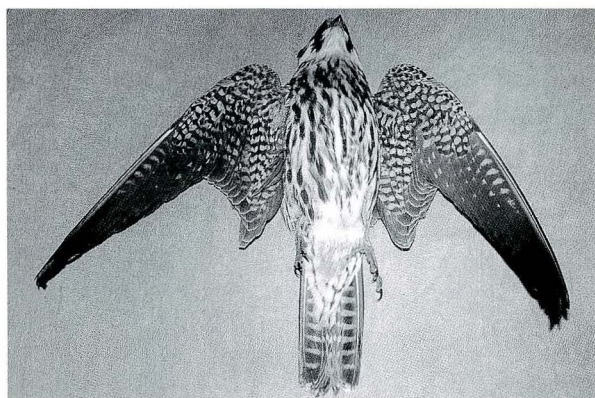


図2. 腹面.



図3. 頭部.

また、下腹と脛毛は赤褐色を呈さず、背面には淡黄色の明瞭な羽縁が見られることより、幼鳥と判定した。

羽色および計測値から雌雄の識別をすることは、困難と思われた。

なお、本鳥は神奈川県立生命の星・地球博物館資料(KPM-NF2000547)として登録・保管されている。

おわりに

神奈川県自然環境保全センターでは、1978年から野生傷病鳥獣の保護をおこなっているが、チゴハヤブサが収容されたのは、今回が初めての記録となった。

日本野鳥の会神奈川支部(1998)によると、留鳥であるチョウゲンボウがほぼ県下全域で見られるのに対し、チゴハヤブサの観察例は沿岸部が多い。北日本で繁殖した個体の秋の渡りのルートは、内陸ではな

く沿岸に近いところなのであろう。春の渡りについては詳しく調べられていないが、県内では5月に2例が報告されており、今後の観察記録、調査に期待したい。

また、本文中の和名、英名および学名は日本鳥学会編、日本鳥類目録改定第6版(2000)によった。

文 献

- 日高敏隆編, 1997. 日本動物大百科, 第3巻, 鳥類Ⅰ, p.175. 平凡社, 東京.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男, 1995. 日本のワシタカ類, p. 362. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版, 345 pp. 日本鳥学会.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 1998. 神奈川の鳥 1991-96, 神奈川鳥類目録Ⅲ, p. 41-42. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.

(神奈川県自然環境保全センター)